

1 級東京会場【シーチング組み立て】傾向と対策

色が付いていない箇所は常に気を付けていただきたい箇所となります。青く印した箇所は今回のデザインで関係ある箇所です。

1 級ではシーチング組み立ての完成度の高さを求める。シーチング組み立ての完成度を上げるためにどのようにピンうちをすればよいか研究や工夫をし、身頃、袖のデザイン表現、シルエット表現を確認して試験に望んで頂きたい。また、パタンナーの業務として、しかるべき位置に正確にいせを入れ、くせとりを行い、本物の商品が想像できるものでなくてはならない。

以下の項目は、求めているレベルに達していない又は未完成のため不合格の対象となるので注意する。

- ① 課題のデザインが正しく立体化されていないもの
- ② 構造上のデザイン線の間違え
- ③ パーツの欠落のあるもの
- ④ シーチング組み立てが未完成なもの
- ⑤ 地の目の方向が異なるもの(横地使用)
- ⑥ 着丈・袖丈等の違い
- ⑦ パターンの欠落、縫い代の欠落
- ⑧ 仕様書が未記入

<身頃>

構成	①	身頃は3面構成のパネルライン。バストダーツはウエストダーツを利用してマニピュレーションを行う。
	②	ウエストの仕上がり寸法を決め、前後身頃切り替えのダーツ量、マニピュレーションを行うウエストダーツ量を決めるため、それぞれのバランスが悪いときれいなシルエットが表現出来ない。
ピン組立て	①	マニピュレーションの組み立ては、ウエストダーツをピン打ちし、ポケット口を上下突合せにした状態で裏面から接着芯や接着テープで貼り合わせる。その後、パネルラインを伏せ、ポケットを付ける工程で処理をしなければ、ポケット口が開いてしまいシルエットが崩れる原因となる。
	②	切り替え線は、なめらかな曲線が描けていないとピン打ちしても思い通りのシルエットにならない。
	③	切り替え線はくせとりをしてピンを打つことで身頃の滑らかなラインが表現できる。
	④	ピンの間隔や打つ位置もシルエットに大きく影響する。どこにピンを打つべきか、どのくらいの間隔でピン打ちするかをよく考えて組み立てる。
縫い代処理	①	前端的カーブは断ち切りにせず、出来上がり線で折り、縫い代を折り込む。アイロンだけではカーブをうまく折れない場合、ぐし縫いをして縫い代を落ち着かせ、ピンの打ち方や本数でカーブが美しく仕上がるように工夫する。
	②	裾、袖口も前端同様に出来上がりに折り、縫い代が出てこないようにある程度ピンで止める。裾、袖口が折られていなければ未完成として不合格になるので注意する。
	③	後ろ中心の始末は、左後ろ身頃を8～10cmほどの幅で作成し接ぎを作るか、左右後ろ中心の出来上がり線を写して接ぎを作らず縫い目を表現するなど、美しい後ろ中心を表現することが望ましい。

< ボタン・ポケット >	
バランス	① ボタン位置や間隔のバランスが悪いものがみられた。デザイン画から位置や間隔を確認し、適切な位置に付ける。
縫い代処理	① フラップの周囲に縫い代を取り、出来上がり線に沿ってアイロンを当てながら縫い代を軽く折り上げた後、表からアイロンで折る。またはカーブ部分のみにぐし縫いして折ることで美しいカーブで仕上げることができる。
ピン組立て	① 左胸箱ポケット及び両玉縁付きフラップポケットは身頃の形状を崩さないよう、身頃の立体形状に沿わせる意識をしてピンを打つ。
	② ポケット口はフラップの上側に玉縁が見える構造だが、玉縁がないものがあつた。縫製時の玉縁を考えフラップに玉縁幅を書き込むか、玉縁を作成しフラップと一緒に身頃に付ける。

< 衿・衿付け >	
仕様	① 衿に芯を貼る、貼らないは問わないが、芯を貼る方が衿外回りの伸びを防ぎ、衿折れ線が滑らかに返る為、芯を貼るほうが美しく仕上がる。
ピン組立て	① 衿付けは縫い代のあたりが表に出ないように注意し、ピンのすくい量はできるだけ少なくする。
縫い代処理	① 衿外回りの縫い代はピンを打たず、縫い代をしっかりと折り込んで仕上げる方が美しい仕上がりになる。その際、縫い代が重なり、浮きやすくなるので衿先のみピンを打つことが望ましい。

< 袖・袖付け >	
ピン組立て	① 肘の形状を表現し、美しい袖を作るには、外袖のくせ取りが必要である。
	② 袖口明き見せの始末の表現は、後ろ袖切り替え線の明き止まりまでピンを打ち明き見せ部分は持ち出しと見返し分量の縫い代を付けてアイロンで折ることが望ましい。
	③ 肩パットの設定が悪い為、安定した袖付けが出来ず見栄えが悪いものが多く見られた。肩パットは前後共にアームホールの縫い代端までしっかりと掛かるように設定する。
	④ 袖付けのピン打ちは、縫い目線の際を袖付け線に沿って平行に止めるが、ピン打ちやいせ配分の不備のために袖のシルエットを崩してしまったものが多かった。ピン打ちでいせの表現ができない場合は、ぐし縫いをして袖山の形状をある程度整えてから付けるなどの工夫が必要である。
	⑤ 袖付けの際、最も重要なことはいせの分量と配分を正確に行った上で、合い印をしっかりと合わせて袖を付けることである。繰り返しの練習は必須である。

パターンメイキング技術検定 1 級 合格への重要なカギ

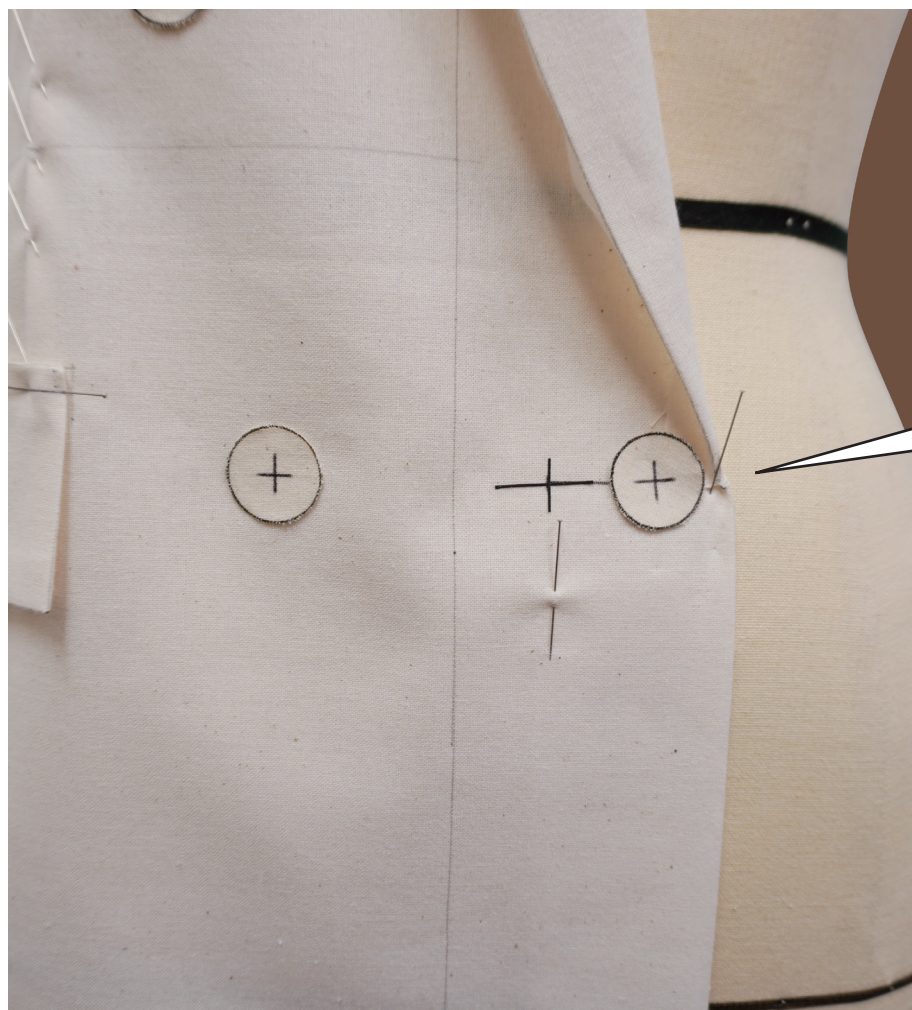
【合格作品と不合格作品を分ける「見直しと修正」の重要性】

パターンメイキング技術検定1級は、プロフェッショナルとして通用する高度な知識と技能を測る、非常にレベルの高い試験です。本試験の採点結果を分析したところ、多くの不合格作品に共通して見られる重要な課題が判明しました。これから受検を検討されている方、次回に向けて学習される方々へ、合格のために不可欠な意識と対策について周知いたします。

【不合格の最大の要因：「組み立て」の後の「検証・修正」工程の欠落】

1級の受検者は、作図技術やトワル作成の基礎スキルが高い方がほとんどです。ピンの打ち方なども丁寧で、一見して体裁が整っている作品が多く見受けられます。しかし、「作図→トワル組み立ては終了時刻より余裕をもって終わらせ、検証・修正や縫製仕様書作成に充て完成度を上げてほしい」で時間いっぱいとなり、最後の「見直し・修正」の工程を十分に確保できていないケースが散見されます。トワルを組み立てた時点で作業を終えてしまう方が多く、「組み立て＝完成」ではないという意識が不足していることが、合否を分ける結果となっています。トワルは、作図が立体として正しく機能しているかを検証し、修正を加えるための「立体設計図」です。

【不合格作品に見られる典型例】



ダブルの打ち合わせに付くボタン位置が左右対称でない。



ピン打ちの位置が悪く、返り線が曲がっている。



正確な上がり位置でピンが打てていない。



イセをきれいに分散できていない。



前袖幅不足によるへこみ。前袖山形状が悪い。



後ろ身頃の切り替え位置が悪く、後身頃がへこんでいる。



袖が後振りになっている。
いせ分量が多く、イセをきれいに分散できていない。

【1級合格の必須条件】

合格レベルの作品に求められるのは、単に時間内にトワルを仕上げるのではなく、「プロとして通用する、完成度の高いパターンやトワル」を提出することです。作図からトワルを組み立てた後、必ず時間を確保してボディに着装し、シワやたるみ、設計ラインの精度を厳しくチェックしてください。合格のためには、この「徹底的な見直しと修正」の工程が不可欠です。受検に際しては、作図や組み立てのスピードを計画的に上げ、作品の精度を高める「見直しのための時間」を必ず確保して臨んでください。

【採点基準の公正性について】

本検定では、特定の指導者による偏りが生じないよう、5名以上の採点者による厳正な審査を実施しております。採点基準も明確に設け、プロのパタンナーに求められる技術水準と完成度に基づき、公正に評価を行っています。